

# 2009 年度大会テーマ投稿論文

## 大会テーマ

### 「貧困の今日的現状と新たな福祉課題を探る」

## 身体障害者手帳交付状況について

—川崎市における身体障害者手帳交付事務より—

川崎市福祉職 石原朝美

### 1. はじめに

身体障害者手帳交付状況について、どのような特徴があるのだろうか。

社会福祉行政業務報告によると、平成16年の手帳交付台帳登録数は4,672,390人、身体障害者手帳交付状況の新規交付数は355,609人であり、その内肢体不自由新規交付数は180,963人（50%）となっている。

平成18年の身体障害者実態調査では、全国の18歳以上の身体障害者数（在宅）は、3,483,000人、身体障害児（在宅）は93,100人と推計されている。身体障害者の種別をみると肢体不自由が一番多く1,760,000人で全体の50.5%を占め、次いで心臓機能障害（17.1%）、視覚障害（8.9%）と続く。増加率では内部障害全体が前回比126.0%と肢体不自由の100.6%などと比較して増加がみられている。年齢階級別状況では、70歳以上が51.0%を占め、65歳以上の割合も63.5%と高齢化がみられ

る。身体障害の程度については、1・2級の割合が48.1%となっており、また原因となった疾患別状況では、心臓疾患（10.0%）、脳血管障害（7.8%）、骨関節疾患（6.8%）の割合が高くなっている。

以上のような報告・調査がされているが、本報告ではより具体的に交付実績から身体障害者手帳交付状況の特徴について整理したい<sup>1</sup>。

身体障害者手帳に関しては、その障害の定義や対象範囲、認定方法について議論されてきており<sup>2</sup>、また諸外国との比較研究もされている<sup>3</sup>。こういった研究等に合わせて、本報告のような交付実績からの整理も、今後の障害者福祉を考える際に役立つかもしれない。

### 2. 川崎市<sup>4</sup>の身体障害者手帳発行状況

平成19年4月1日付から20年3月1日付身体障害者手帳審査交付事務に関して、申請件数3,785件、交付者数3,587人、内重複障害43人、また返

1 本報告で使用する主な数値結果は、川崎市障害者更生相談所事業概要（平成19年度）に掲載したものである。

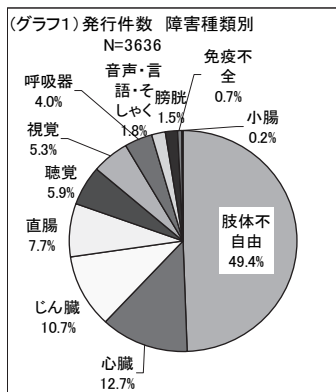
2 「身障福祉法における対象規定の成立と展開に関する覚書」佐藤久夫・日本社会事業大学社会事業研究所年報18・1983や「日本における障害者の法的定義—その現状と課題—」佐藤久夫・リハビリテーション研究No.83・1995や「特集；障害認定の諸問題」ノーマライゼーション・2004.12など。

3 「障害者手帳制度に関する国際比較研究」植村英晴・日本社会事業大学社会事業研究所年報No.37・2001や「ヨーロッパの福祉サービスにおける障害の定義」日本社会事業大学佐藤ゼミ・ノーマライゼーション2006.10など。

4 川崎市は人口(H19年10月1日)約1,369,443人、65歳以上人口比15.6%の政令指定都市である。

戻件数は149件、不交付（肢体不自由7級）は6件、非該当2件であった。

(1) 障害種類別の審査・発行・返戻件数について  
障害種類別の審査・発行・返戻件数については、以下（表1）（グラフ1）の通りであり、肢体不自由発行割合が全体の49.4%を占める。



(表1) 障害種類別 審査・発行・返戻件数 (件)

	肢体不自由	肢体不自由 審査	肢体不自由 (更生相談所 診察分)	視覚障害	聴覚	音声	言語	そしゃく	心臓	心臓 審査	呼吸器	じん臓	膀胱	直腸	小腸	免疫不全	合計
審査件数	1,393	430	37	200	238	27	31	9	104	379	175	389	56	280	9	28	3,785
発行件数	1,329	430	37	192	215	27	31	9	82	379	145	389	56	280	8	27	3,636
種別割合(%)	36.6	11.8	1.0	5.3	5.9	0.7	0.9	0.2	2.3	10.4	4.0	10.7	1.5	7.7	0.2	0.7	
返戻件数	64	0	0	8	23	0	0	0	22	0	30	0	0	0	1	1	149
返戻/審査(%)	4.5	0.0	0.0	4.0	9.7	0.0	0.0	0.0	21.2	0.0	17.1	0.0	0.0	0.0	11.1	3.6	

注：肢体事務審査分＝肢体不自由の中で人工関節置換術・切断等のもので障害程度審査委員会の審査を経ず更生相談所内で審査事務がされたもの。

心臓事務審査分＝心臓機能障害の中で人工ペースメーカー・人工弁移植・人工弁置換をしたもので障害程度審査委員会の審査を経ず更生相談所内で審査事務がされたもの。

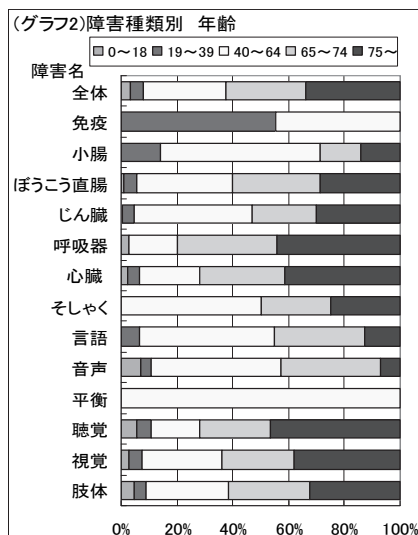
## (2) 手帳発行内訳

手帳発行内訳について、年齢・等級・原因疾患について整理する。(肢体不自由9件、視覚1件、心臓2件、直腸1件不明の総数3,623件について集計した。) (参考参照)

### ①年齢 (グラフ2)

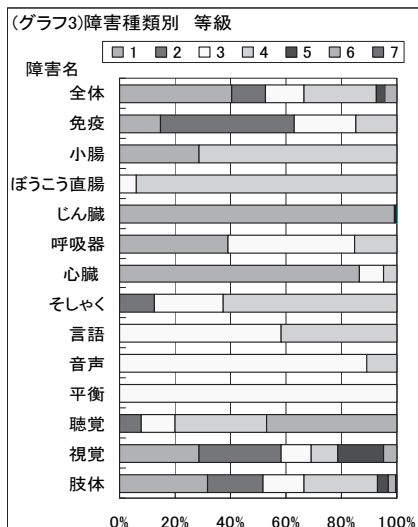
全体として、65歳以上が62.3%を占め高齢化がみられる。障害種類別に65歳以上の割合をみると、呼吸機能障害が80%、聴覚障害が71.6%と高くなっている。

一方、免疫機能障害や小腸機能障害、音声・言語・そしゃく機能障害やじん臓機能障害など、比較的若い層が多い障害もある。



## ②等級（グラフ3）

全体として1・2級の割合は52.7%であり、半数が重度障害となっている。障害種類別にみるとじん臓機能障害は99%、心臓機能障害86.7%が1級であり、また免疫機能障害、視覚障害も1・2級の割合が高い。



## ③障害原因（表2、表3、表4）

内部障害では、糖尿病関連のものが目立つ。肢体不自由では、脳梗塞・脳出血・くも膜下出血などの脳血管疾患、変形性股関節・膝関節症が多い。

(表2) 障害原因主なもの（内部障害）

障害原因	原 因
視 覚	緑内障 (22.5%) 糖尿病性網膜症 (21.5%) 網膜色素変性症 (13.6%) 黄斑変性症 (10.5%) 網脈絡膜萎縮 (10.5%)
聴 覚	感音性難聴 (72.1%) 混合性難聴 (27%)
音 声	咽頭癌 (71.4%) 声門下狭窄 (7.1%)
言 語	脳梗塞 (48.4%) 脳出血 (25.8%) くも膜下出血 (16.1%)
そ しゃ く	口腔癌 (25%) 脳梗塞 (25%)
心 臓	房室ブロック (25.1%) 洞機能不全症候群 (24.2%) 大動脈弁閉鎖不全症 (7.9%) 大動脈弁狭窄症 (7.6%) 僧帽弁閉鎖不全症 (5.5%) 心房細動 (5%)
呼 吸 器	肺炎腫 (37.2%) 間質性肺炎 (18.6%) 慢性閉塞性肺疾患 (13.8%) 肺結核後遺症 (9%) 肺繊維症 (4.8%)
じ ん 臓	糖尿病 (46.3%) 慢性腎不全 (17%) 腎硬化症 (13.4%) 糸球体腎炎 (8.7%)
直腸ぼうこう	大腸癌 (63.6%) 膀胱癌 (9.6%)
小 腸	クローン病 (42.9%)

## 3. 特徴として

### (1) 高齢化

全体として、65歳以上が62.3%を占めている。これは身体障害者手帳交付に関して年齢要件がなく<sup>5</sup>、主にその機能障害によって審査されるためであり、極端な表現をすれば全国民が一生のうち一度は身体障害者手帳を取得できるといえる。

特に、肢体不自由では、高齢者が脳梗塞・脳出血・くも膜下出血などの脳血管疾患を発症し、片麻痺や四肢麻痺等の機能障害となり1・2級を取

得していることが多い。また加齢による変形性股関節・膝関節症、大腿骨頸部骨折・大腿骨壊死により、人工関節置換術を行うなどにより3・4級となっている。

呼吸機能障害でも65歳以上が80%を占めているが、その障害原因では介護保険の特定疾病である慢性閉塞性肺疾患の割合も高い。聴覚障害でも、診断上では障害原因に老人性難聴とあるものも多く、加齢による難聴にて6級の手帳を取得していることが推測される。

5 身体障害認定基準 疑義解釈「加齢のみを理由に身体障害者手帳を交付しないことは適当ではなく、…、近い将来において生命の維持が困難となるような場合を除き、認定基準に合致する永続する機能障害がある場合は、認定できる可能性はある。

(表3) 障害原因主なもの(肢体不自由・年齢)(件)

障害原因/年齢(歳)	0～18	19～39	40～64	65～74	75～	総計	%
脳梗塞・脳出血・くも膜下出血	2	8	169	188	218	585	32.7%
変形性股関節症・変形性膝関節症		1	83	115	112	311	17.4%
大腿骨頸部骨折・大腿骨壊死	1	1	35	35	67	139	7.8%
関節リウマチ		8	35	25	12	80	4.5%
パーキンソン病・パーキンソン症候群			12	27	36	75	4.2%
悪性腫瘍関連	5	5	26	10	4	50	2.8%
事故・外傷・骨折	1	13	25	4	6	49	2.7%
脊柱管狭窄症			8	15	26	49	2.7%
廃用症候群			2	12	29	43	2.4%
頸髄・頸椎疾患	1	2	14	7	12	36	2.0%
糖尿病性壊疽		1	14	8	4	27	1.5%
脳性麻痺	18	1	2	2		23	1.3%
頸椎症性脊髄症			5	8	8	21	1.2%
脊髄小脳変性症		2	9	8		19	1.1%
脳挫傷	1	2	9	5	2	19	1.1%
脊髄・脊椎疾患	2		7	4	3	16	0.9%
低酸素脳症	5		5	4	2	16	0.9%
筋萎縮性側索硬化症		2	5	7	1	15	0.8%
閉塞性動脈硬化症		1	3	4	7	15	0.8%
多系統萎縮症			6	7	1	14	0.8%
先天性奇形	9	2	1	1		13	0.7%
腰椎疾患		2	4	1	5	12	0.7%
進行性核上性麻痺			3	2	5	10	0.6%
脳炎	5	3			2	10	0.6%
後縦靭帯骨化症			6	1	2	9	0.5%
ダウン症候群・染色体異常	8					8	0.4%
多発性硬化症		5	1	1		7	0.4%
胸髄・胸椎疾患		1	2	1	1	5	0.3%
硬膜外血腫・硬膜下血腫			2	2	1	5	0.3%
先天性股関節脱臼・先天性膝関節脱臼	1	3	1			5	0.3%
大腿骨疾患		2	2		1	5	0.3%
脳質周囲白質軟化症	5					5	0.3%
水頭症	1			2	1	4	0.2%
脳脊髄炎		1	3			4	0.2%
変形性関節症		1		1	2	4	0.2%
ポリオ			1	2		3	0.2%
家族性痙性対麻痺	1		2			3	0.2%
関節炎			1		2	3	0.2%
反射性交感神経性ジストロフィー			2	1		3	0.2%
ウェスト症候群	2					2	0.1%
パージャー病		2				2	0.1%
ハンチントン病			2			2	0.1%
モヤモヤ病脳梗塞	1		1			2	0.1%
滑脳症	2					2	0.1%
髄膜炎	1		1			2	0.1%
精神運動発達遅滞	2					2	0.1%
脊髄損傷			1	1		2	0.1%
先天性代謝異常	1	1				2	0.1%
糖尿病性神経障害					2	2	0.1%
二分脊椎	2					2	0.1%

注；①それぞれ以下の疾患を含めて集計した。

頸髄・頸椎疾患；頸髄空洞症、頸髄症、頸髄損傷、頸部脊髄症、頸椎症、頸椎症性筋萎縮症  
 脊髄・脊椎疾患；脊髄炎、脊髄髄膜瘤、脊髄損傷、脊椎カリエス、脊椎炎、脊椎側弯症  
 腰椎疾患；腰椎狭窄症、腰椎骨折、腰椎椎間板ヘルニア、腰椎変形側弯症  
 胸髄・胸椎疾患；胸髄損傷、胸椎脊髄炎  
 大腿骨疾患；大腿骨骨髄炎、大腿骨頭すべり症、大腿大理石骨病

②65歳以上・介護保険の特定疾病対象には塗りつぶしを行った。疾病名に関して、変形性股関節・膝関節症は両側の膝関節であるか、悪性腫瘍関連では末期かどうか判断がつかないため塗りつぶしを行っていない。

(表4) 障害原因主なもの(肢体不自由・等級)(件)

障害原因／等級	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級
脳梗塞・脳出血・くも膜下出血	329	154	41	42	6	14	
変形性股関節症・変形性膝関節症		4	90	204	10	3	
大腿骨頸部骨折・大腿骨壊死		4	20	109	5	1	
関節リウマチ	14	28	20	16	1	1	
パーキンソン病・パーキンソン症候群	22	37	14	1	1		
悪性腫瘍関連	18	6	12	7	5	2	
事故・外傷・骨折		3	8	23	6	5	4
脊柱管狭窄症	4	12	16	3	10	4	
廃用症候群	36	5	2				
頸髄・頸椎疾患	14	9	4	4	4	1	
糖尿病性壊疽	2	1	5	17		1	1
脳性麻痺	11	3	4	3		2	
頸椎症性脊髄症	5	6	3	4	2	1	
脊髄小脳変性症	5	10	2	1	1		
脳挫傷	9	4	1	2	1	2	
脊髄・脊椎疾患	6	5	3		1	1	
低酸素脳症	15	1					
筋萎縮性側索硬化症	10	5					
閉塞性動脈硬化症	4	3	4	4			
多系統萎縮症	4	10					

一方、免疫機能障害を始め、障害種別によっては若い層が多いものもあり、認識しておきたい。

## (2) 他サービスとの関連

65歳以上が62.3%であり、また介護保険の特定疾病に該当する場合も合わせると、介護保険の対象となる方は全体の7割程度を占めると考えられる。

介護保険サービスと重複する障害者福祉サービスは介護保険サービスが優先となっており、また重度障害者医療費助成制度が各自治体で見直され始めていることから、高齢者の脳血管障害者の新規手帳申請が減ることも考えられるが、公共料金や税制、駐車禁止除外指定等のサービス利用希望もあり、今後の動向が見守られる。

## (3) 機能障害の「全廃」

視覚障害以外の障害認定基準では、人工物により機能障害を補完する前の状態で認定する。

肢体不自由の人工関節や心臓機能障害のペースメーカーなどによる手帳交付は、当更生相談所事務審査分から推測すると全体の2割程度であり、数的にも多くなっている。

また人工物による機能障害の補完がある程度う

まくいつている場合、その日常的なADLはそれ程低くならないこともある。

心臓機能障害で、人工ペースメーカーや人工弁移植・弁置換術を行った場合、心臓機能の「全廃」とされ1級となった方は、心臓機能障害全体の82.2%を占める。またこの方々の「活動能力の程度」が同じ心臓機能障害の3・4級の方々と比較してどの程度なのか。同様に変形性股関節・膝関節症、大腿骨頸部骨折・大腿骨壊死により、人工関節置換術を行うと、その関節機能は「全廃」とされ3・4級となり、肢体不自由の3割程度を占めている。「動作・活動」状況は同じ下肢の関節に障害がある場合の一関節の「著しい障害」5級や「軽度の障害」7級、二関節での4級や6級の方々との比較ではどうか。

## 4. おわりに

以上、川崎市の身体障害者手帳審査交付事務から身体障害者手帳交付状況について、数的結果を紹介し、高齢化・他サービスとの関連・機能障害の「全廃」について述べた。

今回の整理では、等級と実際のADLの状況や、先天性や若い障害のある方が、年齢を重ねて障害の状況が変化した場合の等級変更や障害名追加な

どによる状況、またそもそもの手帳取得目的など整理できず今後の課題である。

身体障害者に関する調査が、数値的なものなどでは特に、肢体不自由、高齢者のニーズとなりやすいことも考えられ、その調査対象者の設定には配慮が必要だと思われた。そして、身体障害者手帳を交付された「身体障害者」の制度が対象としようとしているところについて、また身体障害者手帳そのものについて、自立支援法の動向や介護保険を始め高齢者の制度と合わせて、考えていき

たいと思う。

(参考文献)

- ・身体障害者認定基準及び認定要領（障害者福祉研究会監修・中央法規・2003）
- ・身体障害児者実態調査(平成18年)(厚生労働省・平成20年)
- ・「身体障害の診断」伊藤利之（ノーマライゼーション・2004）

(参考) 手帳発行内訳 (年齢・等級)

障害名	年齢 (歳)					等級 (級)							計
	0~18	19~39	40~64	65~74	75~	1	2	3	4	5	6	7	
肢体 (件)	81	77	532	520	576	564	359	268	472	73	46	5	1787
(%)	4.5	4.3	29.8	29.1	32.3	31.6	20.1	15.0	26.4	4.1	2.6	0.3	49.3
視覚 (件)	5	9	55	49	73	55	56	21	18	32	9	0	191
(%)	2.6	4.7	28.8	25.7	38.2	28.8	29.3	11.0	9.4	16.8	4.7	0.0	5.3
聴覚 (件)	12	11	38	54	100	0	17	26	71	0	101	0	215
(%)	5.6	5.1	17.7	25.1	46.5	0.0	7.9	12.1	33.0	0.0	47.0	0.0	5.9
平衡 (件)	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
(%)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
音声 (件)	2	1	13	10	2	0	0	25	3	0	0	0	28
(%)	7.1	3.6	46.4	35.7	7.1	0.0	0.0	89.3	10.7	0.0	0.0	0.0	0.8
言語 (件)	0	2	15	10	4	0	0	18	13	0	0	0	31
(%)	0.0	6.5	48.4	32.3	12.9	0.0	0.0	58.1	41.9	0.0	0.0	0.0	0.9
そしゃく (件)	0	0	4	2	2	0	1	2	5	0	0	0	8
(%)	0.0	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0	12.5	25.0	62.5	0.0	0.0	0.0	0.2
心臓 (件)	11	19	99	140	190	398	0	39	22	0	0	0	459
(%)	2.4	4.1	21.6	30.5	41.4	86.7	0.0	8.5	4.8	0.0	0.0	0.0	12.7
呼吸器 (件)	4	0	25	52	64	57	0	66	22	0	0	0	145
(%)	2.8	0.0	17.2	35.9	44.1	39.3	0.0	45.5	15.2	0.0	0.0	0.0	4.0
じん臓 (件)	1	17	164	91	116	385	0	3	1	0	0	0	389
(%)	0.3	4.4	42.2	23.4	29.8	99.0	0.0	0.8	0.3	0.0	0.0	0.0	10.7
ぼうこう直腸 (件)	3	16	115	105	96	0	0	21	314	0	0	0	335
(%)	0.9	4.8	34.3	31.3	28.7	0.0	0.0	6.3	93.7	0.0	0.0	0.0	9.2
小腸 (件)	0	1	4	1	1	2	0	0	5	0	0	0	7
(%)	0.0	14.3	57.1	14.3	14.3	28.6	0.0	0.0	71.4	0.0	0.0	0.0	0.2
免疫 (件)	0	15	12	0	0	4	13	6	4	0	0	0	27
(%)	0.0	55.6	44.4	0.0	0.0	14.8	48.1	22.2	14.8	0.0	0.0	0.0	0.7
合計 (件)	119	168	1077	1034	1224	1465	446	496	950	105	156	5	3623
(%)	3.3	4.6	29.7	28.5	33.8	40.4	12.3	13.7	26.2	2.9	4.3	0.1	